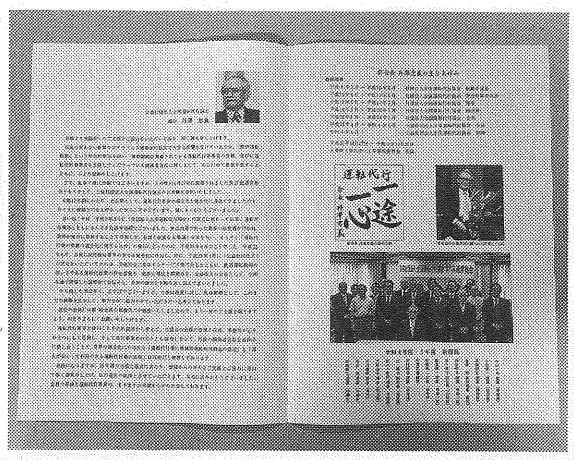
（昭和35年10月22日
第三種郵便物認可）

全国運転代行協会（板橋勇二会長）はこのほど、丹澤忠義前会長（現顧問）の退任を特集した冊子を会報として制作し、警察、国土交通両省庁や都道府県など関係方面に送った。あいさつ文には「心一つにして業界健全化を」との思いがつづられ、公益社団法人の認定取得など、会長として6期12年、役員として四半世紀にわたる活動の歩みが紹介されている。

丹澤氏は6月の通常総会で勇退した。ジェイ・ディ共済協同組合（JD共済）の理事長は続けている。運転代行業界の適正化・健全化に力を注いだ。



退任あいさつの会報には、「運転代行一途一心」と書かれた本人直筆の色紙や、新役員との記念写真が添えられた

板橋会長は会報の送付状で、前会長の一途一心の想いをしっかりと受け継ぎ、業界がさらに発展するよう精進していく」と決意を示した。

丹澤氏の退任あいさつ（要旨）は次の通り。

◇

全運協
「心一つに業界健全化を」
丹澤前会長の退任 会報で特集

私事で誠に恐縮ではございますが、この度の6月27日に開催されました第27回通常総会をもちまして、公益社団法人全国運転代行協会の会長職を退任いたしました。6期12年間にわたり、会長職として、運転代行業界の適正化と健全化にまい進できましたのも、ひとえに皆様方の支えがあったからこそでございます。誠にありがとうございました。

思い起こせば、平成8年（1996年）3月に「社団法人全国運転代行協会」の設立に携わって以来、運転代行業界とともに歩んできた四半世紀でございました。無法地帯であった業界の法整備が行われ、業界が健全に発展することを目指して、行政と度重なる協議と交渉を行い、ようやく「自動車運転代行業の業務の適正化に関する法律」の施行に至ったのは、平成14年（2002年）6月のことでした。平成22年6月、会長に就任後は業界のさらなる健全化に注力し、特に、平成24年3月に「公益社団法人」の認定をいただいたのは、交通安全に寄与するサービス業であるとともに、飲酒運転根絶の担い手である運転代行業の存在意義や、業界の現状と問題点を、公益法人の会長として、全国各地で開催した講習会でお伝えし、業界の健全化を繰り返し訴えてまいりました。

やり残したことは多く、志半ばでございますが、今後は後進に託し、私は顧問として、これまでの経験を生かして、微力ながら協力させていただきたいと考えております。

後任の会長には前・副会長の板橋勇二が就任いたしましたので、より一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

運転代行業界全体のことを大所高所から考えて、当協会の会員の皆様と役員、事務局が心を一つにして活動し、そして地元事業者の方々とも協力し合って、行政の関係者各位と前向きに話し合うことで、業界の健全化に不可欠な「運転代行業の地域別最低利用料金の設定」と「誰もが安心して利用できる運転代行業の実現」は可能だと確信しております。

26年間の当協会運営にあたり、皆様からの多大なご支援とご協力に重ねて厚く御礼申し上げ、私の退任のあいさつとさせていただきます。